



道の駅保田小学校 まちの縁側

懐かしい記憶を呼び起こし、 地域活性化の起爆剤に 廃校活用の新しいかたち

都市交流施設
道の駅保田小学校・
附属ようちえん

千葉県
鋸南町

房総半島の西南部に位置する千葉県鋸南町は、風光明媚な海岸線と懐かしい里山が広がっている。都心から約65キロ——北部に鋸山があり南房総を代表する観光地に2015年、ユニークな「道の駅保田小学校」が誕生した。廃校となった町立小学校の施設をリノベーションした体験型の道の駅。懐かしい小学校風景を演出する様々なしつらえが好評で、年間70万人を超える利用者が引きも切らない。2023年には雑誌企画「道の駅 最強ランキング」で、全国1213駅中第2位を獲得した。道の駅をオープンさせた鋸南町を訪れお話をうかがった。



「道の駅 保田小学校」の正面外観。1階に食堂などの施設、2階に教室を利用した宿泊室が並ぶ

人口減少に歯止めをかける 手厚い定住促進支援策

千葉県鋸南町は1959年、南部の勝山地区（旧勝山町）と北部の保田地区（旧保田町）が合併して誕生した。当時の人口は約1万5,000人だったが、その後、少子高齢化が進むなどで人口は減少し続け、2000年に過疎地域指定を受けている。2024年8月1日現在の人口は6,744人となっている。

2000年以降、いわゆる「平成の合併」が推進された。南房総一帯も、2003年以降に館山市を含む安房9市町村の合併が模索されたが、翌年に館山市が離脱。その後は8町村での合併が論議されたが、鋸南町は自立の道を歩むこととなった。ちなみに、2006年に鋸南町を除く7町村が合併し、南房総市となっている。

自立の道を歩む鋸南町は、様々な行財政改革に取り組んでいった。そうしたなかで、2015年の国勢調査当時から2020年にかけての人口減少率は12.8%と県下最大となった。また2020年の高齢化率は48.1%で県内第2位である。



隣接する「道の駅 保田小附属ようちえん」

人口は今後も減少し続け、2035年には推計値で5,000人を割り込むことが見込まれている。県内では最も人口の少ない町ということになる。

このように人口が減少し、少子高齢化により学校の統廃合も進むなかで、跡地利用と町の関係人口増加など地方創生の切り札の一つとして2015年にオープンさせたのが「道の駅 保田小学校」である。

その概要紹介は別項で後述するが、まず町の人口減少、少子高齢化への対策について見てみよう。鋸南町総務企画課企画財政室副主査の金木拓也さんと同地域振興課まちづくり推進室主任主事の中村真吾

さんにお話をうかがった。

「人口減少に対する取り組みで目玉となるような施策としては、定住促進に向けた支援である『住宅取得奨励金』があります。2023年9月、従来は新築住宅を対象に最大100万円の支給でしたが、他地域との差別化も図り、中古住宅も含め最大400万円まで拡充しました」（金木さん）

「住宅取得奨励金」のほかに「移住支援金」「住宅リフォーム補助金」「空き家バンク成約奨励金」「空き家片付け応援支援金」「結婚新生活支援事業」「通勤・通学支援助成金」の支給がある。2024年度からは新たに「奨学生ふるさと定住促進補助金」「英語検定等補助金」の支給も始まり、鋸南町の定住促進に向けた支援は手厚いものがある。

町内の幼児・初等教育の施設を 統合・再編成して一本化

鋸南町では、子育て支援にも力が注がれている。「給食費の無償化事業」では、保育所から中学校まで一人あたり84万円が補助されている。教育環境の充実にも取り組み、小学校16教室、中学校11教室に空調設備が設置されている。児童生徒一人に1台ずつ端末が支給され、高速・大容量通信ネットワークの整備が進んでいる。

国では2018年度から公立幼稚園の保育料無償化が実現されているが、鋸南町ではそれに先駆け2017年度から無償化を始めた。これは、県内でも初めてだという。

一方、教育施設等の再編も進められた。町内には従来中学校2校、小学校3校、幼稚園3園、保育所・学童保育所が各2カ所ずつあった。それが段階を経て、次のように一本化して再編された。

鋸南中学校（1995年4月）

鋸南小学校（2014年4月）

鋸南幼稚園（2009年4月）

鋸南保育所（2008年4月）

鋸南学童保育所（2014年4月）

「少子化に伴う再編ということです。元々、建物の老朽化が進んでいました。そうしたことへの対策の意味も含め、2008年ごろから再編を行いました。中学校を除いてすべての施設が、旧勝山小学校の場所に

に集約されました」（金木さん）

鋸南小学校（旧勝山小学校）は旧保田小学校や旧佐久間小学校の学区から離れているが、朝夕に送迎用のスクールバスが運行されている。

小学校をコンセプトにした 日本初の道の駅へ至る道すじ

町内の教育施設が再編されていくに従い、それまで学童保育所から中学校まで12の施設があったが、5カ所に集約されていった。そこで、廃校、廃園となった施設の跡地をどうするのかという問題が浮上してくる。

「ちょうど小学校の廃校時期が、まちづくりの指針となる『鋸南町総合計画』を策定するタイミングと重なりました。策定にあたっては町民の方々などとのワークショップが行われたのですが、そのなかで廃校となる保田小学校の跡地を道の駅にするといった活用方法があるのではないだろうかといった提案がありました。それがきっかけとなり、具体的な検討を行っていきました」（金木さん）

そもそも保田小学校跡地を道の駅にするという発想は、交通アクセスの良さが背景となっている。町内を貫く富津館山道路の鋸南保田インターチェンジがすぐそばに位置していることが、いちばん大きなポイントとなったという。

では、なぜ「保田小学校」という名称なのか。また、道の駅のコンセプトが「小学校」なのはどのような経緯からだろうか。

「ネーミングについては、ずいぶん長く検討しましたね。ただ検討過程では、ずっと『仮称 保田小学校』と呼んでいたのです。白石治和町長がはじめてから『小



あちらこちらに懐かしいアイテムが小道具として置かれている

学校』という名前にこだわっていました。名称を公募するという話もありましたが、最終的には町長の決断で『保田小学校』にしようということになりました」（金木さん）

こうして「小学校」というキーワードが道の駅全体のコンセプトとなり、学校にあるモノ・コトが盛りだくさんの「道の駅保田小学校」が完成した。旧保田小学校の「校旗」が掲揚されており、毎朝の始業時刻になると「校歌」が流れる。食堂では「給食」が提供される。家庭科教室では「調理体験」ができる……。リノベーションされてはいるものの、創立以来126年の歴史ある学び舎の空気感がそのまま残っている。

町長の決断によって誕生した、日本のどこにもない唯一の道の駅である。

ずれのない運営を続けて成功 2023年には姉妹施設もオープン

道の駅の運営には、自治体直営方式、第三セクター方式、指定管理者方式など様々な方法がある。そうしたなかで「道の駅保田小学校」は指定管理者（民間企業）が運営している。

「当然、直営という手段もなかったわけではないのですが、直営にしても運営のノウハウがあるわけではなく施設の規模も大きく、町ですべて行うというのは現実的に難しいものがありました。第三セクター方式にしても、キーマンとなる人がいればよいのですが、なかなかいなかった。そういうことで、公共施設の管理運営に長けた企業を全国に公募したわけです」（金木さん）

指定管理者は民間企業である以上、利益を追い求める必要がある。それと、町側の考えとの調整がポイントとなる。

「保田小学校は、町の集客拠点であり、そこから町内全体に送客する役割を有しています。町と指定管理者では、月1回、運営状況の確認を含め目指すべき方向について意識共有を行い、双方で魅力ある施設づくりに取り組んでいます」（中村さん）

「道の駅保田小学校」の利用者はオープン以来、新型コロナウイルス禍下の一時期を除いて増えており、事業の売上高も増加している。そうした成功に裏付けられ、小学校に隣接して置かれていた旧保田幼稚園跡地などに、姉妹施設である「道の駅保田小附属ようちえん」が2023年オープンした。

昭和世代にとってはどこか懐かしい空気感の漂う施設のなかには、教室を利用した宿泊室もある。先割れスプーンの給食を食べ、黒板のある教室に泊まる。週末などはほぼ満室という稼働率だそうだ。

「学校に泊まれる!」ということで、リピーターの多いことも特長だという。「行ってみたい町」ということで裾南町の関係人口を増やし、やがて「住みたい町」として定住者も増えるという、よいかたちになりつつあるのが裾南町の行く末である。そのきっかけになっているのが「道の駅保田小学校・附属ようちえん」であることは間違いないだろう。

町内にあった旧佐久間小学校・佐久間幼稚園もまた、「バーベキューハウス佐久間小学校」として生まれ変わった。これも、利活用の試行錯誤を繰り返しながら、現在事業が進められているところだ。



里山食堂でいただけるメニュー「保田小給食」

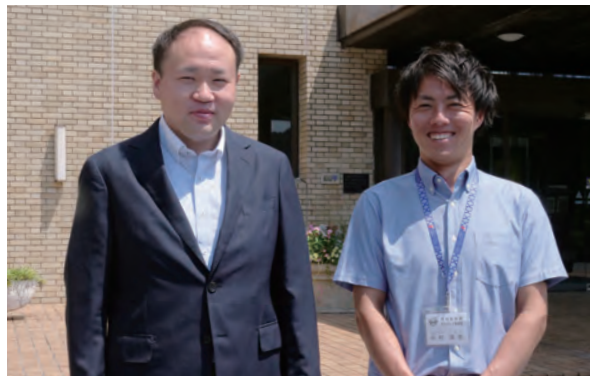


道の駅保田小附属ようちえん

* * *

鋸南町では、観光客の誘致に取り組み、北部にある鋸山の日本遺産登録を目指している。また鋸山に近接する「元名採石場跡地」を様々なイベントや映画等の撮影場所に提供する事業も行われ、これまでに3,500万円の使用料を得ている。

こうした事業により観光客の入込数増加を目指すとともに、関係人口の増加、そして定住人口の増加へとつなげることを目指している。



お話をうかがった町役場の金木拓也さん（向かって左）と中村真吾さん

道の駅のあたらしいかたち 道の駅保田小学校・附属ようちえん

東京都心から、車で約2時間（東京湾アクアライン、富津館山道路経由）、鉄道では内房線経由で約2時間半という南房総の観光地に、2015年、日本ではじめて学校跡をそのまま利用した道の駅がオープン。

目玉となっているのが昔懐かしい「保田小給食」の供される里山食堂、教室をそのまま利用した宿泊室だ。また、広い

旧体育館をそのまま利用したマルシェ「きよなん楽市」では鋸南町の特産物が販売されている。ほかに、保田小オリジナルグッズも。

道の駅としては決して広くはないが1泊2日、ゆっくりと楽しめるところである。



旧体育館を利用したマルシェ



きよなん楽市



宿泊室の内観。4名部屋が10室、15名程度が宿泊可能な大部屋が2室ある。いずれも、小学校の教室のイメージを漂わせている